

令和5年度 宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金交付決定一覧表

番号	事業名	団体名	活動地域	事業概要	交付決定額(千円)
1	第7回気仙沼子ども芸術祭	気仙沼市文化協会	気仙沼市	気仙沼地域の子どもたちが様々な文化に触れる機会をつくることにより、豊かな感性や創造性などを育む一歩になると考え、日常触れることの少ない茶道、華道、書道、手芸、絵画などのワークショップ体験や邦楽(琴、三味線)や日本舞踊、バレエ、郷土芸能などの舞台発表を通して、新たな発見や出会い・つながりをつくる。そして、未来を担う子どもたちの姿に、被災された方々や多くの市民が参加し、感動とともに心癒される時間を共有する。参加した子どもたちも被災しており、活動が心のケアのひとつとなる。震災復興は進んでいるが、コロナ禍の影響もあり人と人のつながりが薄れている時期だからこそ、文化芸術の力によって心を癒し、地域の人々とのつながりを作る機会をと考え「第7回気仙沼子ども芸術祭」を開催する。	551
2	ダーツ交流会・杜の都の笑楽隊	広瀬川倶楽部	宮城県全域	東日本大震災で被災した災害公営住宅・集団移転先の住民を中心に「ダーツ交流会・杜の都の笑楽隊」のイベントを開催し、「元気・笑い・健康・住民同士の笑顔の交流」を目的とする。2012年後半からダーツ交流会の開催回数は2,000回を超え、杜の都の笑楽隊の開催回数は440回を超える実績がある。	1,167
3	2023年 地域のお節介文化を醸成する、持続可能なコミュニティ構築事業	特定非営利活動法人 虹色たんぽぽ	亶理町・山元町・岩沼市・大崎市	地域住民が抱える心の問題を緩和復活できるような継続的な仕組みを構築運営し、「人とのつながり」「グリーンケア」「生きがいづくり」をしながら、持続可能な笑顔になる地域コミュニティを構築する。 <サロン活動>地域コミュニティの構築 「みんなの保健室(全世代向け)」・「おらほの保健室(お年寄り向け)」・「おじいちゃんの野菜づくり講座」・「おばあちゃんの手仕事講座」・「出張保健室」などの各種サロン活動を実施する。 <聞き書き活動>被災者のグリーンケア、震災記憶の記録・伝承 お年寄りや被災者の話を聞き、話言葉のまま記録し一冊の本にする。被災者にとっては震災の記憶を聞いてもらうことでグリーンケアとなり、完成した聞き書き本は震災記憶の記録・伝承につながる。また、年2回の養成講座を行い、聞き書き人を養成するほか、毎月第一日曜日に「聞き書きオープンデイ」を開催し、傾聴や製本作業などのほか、聞き書きに興味がある人への情報提供、当時仮設住宅に住んでいた方が集まったの12年目の同窓会(想いを語る会)を開催する。 <各種相談> ボランティアメンバーである看護師、助産師が、「生活相談」「健康相談」「育児相談」に専門的な立場から対応する。	2,800
4	閉上・元気を運べ・コミュニティ再生事業	一般社団法人 ふらむ名取	名取市	閉上地区の課題として、移住者と地元住民のコミュニティ形成と町内会に属さない公営住宅のコミュニティ形成がある。コミュニティ再生へ向けての取組みの中で、地域住民が高齢化していくため、孤立防止を目的とし、交流茶話会を継続し移住者の参加を呼びかけ、共同作業を行いコミュニケーションを図る。また、閉上だよりを発行し各町内会で配布して顔の見える関係づくりも継続していく。傾聴活動では、被災者・高齢者を中心に個別訪問し、地元の人たち情報提供を行い、希望・生きがいを持ち生活を送ることによりコミュニティ再生への寄与を目指す。 ①茶話会 第一団地7月より毎月4回・計36回 高柳東団地7月より毎月1回・計9回 ②追悼行事 3月11日第一団地 ③季節行事 (夏祭り・芋煮会・クリスマス・餅つき・小正月・節分)6回 ④傾聴活動 月6回×9=54回 ⑤閉上だより 3回発行部数4000部	1,400
5	音楽と交流によるコミュニティ形成支援事業	公益財団法人 音楽の力による復興センター・東北	石巻市・気仙沼市・東松島市・七ヶ浜町・亶理町等	復興の大きな課題の一つと指摘されている、被災者等の心の復興や地域コミュニティの形成促進に向けて、地域の要望を受けて出向き、開催までのプロセスを協働することにより、音楽と交流を通して、ひとり一人の心身のケアや生きがいづくり、住民同士の交流機会を創出することを目的とする。プロのクラシック演奏家による参加型の《復興コンサート》、声楽家とピアニストが務める音楽リーダーが定期的に出向き、共に歌い楽しむ《うたごえサロン》、被災地における《音楽サークル指導》等、全般のコーディネートおよび企画・運営を行う。 地元主催者の開催要望を受けて、趣旨・目的をヒアリングし、地域課題を共有した上で、実施に向け動きだすことが、最も大きな特徴であり、会場調整、現況ヒアリング、広報活動、当日の会場運営には、地元住民にも積極的に関わっていただく。運営ノウハウや、公演への期待・思い出を地域で共有すること、継続的にプロの指導・演奏に触れ、刺激を受けることは、被災者の生きる意欲を引き出し、生きがいを持つことに繋がり、また、再び人が戻ってきた地域にとって、新たな住民共通の思い出づくりとなり、地域活性化を促し、地域への安心感や愛着の醸成が期待される。	1,136
6	こころの交流祭り事業	特定非営利活動法人 こころの森	石巻市	こころの交流祭り事業は、石巻復興祈念公園で定期的に祭りを開催することにより、青空の下、地元出展者と地元被災者のこころの交流を実施し、こころの復興を実現するものである。令和4年には夏祭り、青空マーケットを実施し16,000人程の交流を実施しており、地元住民からの開催を要望する声があり、今年度も4回開催する予定である。被災住民は、家を出て青空の下で人々が交流し、コミュニティを創造することで生きがいを生むことができる。 また、地元の飲食店の多くは東日本大震災により被災しているため、本事業に参加することにより売り上げの向上と、被災住民との交流を図ることができる。 さらに、本事業を通して食と祭りの街石巻を発信することにより、県内からの公園における交流人口の増加へと導き、石巻地域の活性化や、こころと経済の復興に繋がり、毎年継続することにより、復興祈念公園のこころの交流イベントとして定着させることを目指す。	2,274
7	被災者と地域住民コミュニティのIT活用による絆づくり	公益財団法人 仙台応用情報学研究振興財団	石巻市・東松島市・南三陸町・山元町・亶理町	復興地域の住民を対象として、交流の場を創るためのスマートフォン等の簡単な使い方教室と交流会を定期的に開催し、地元住民相互や自治会等との絆づくりと初歩のICT活用につなげる事を目的とする。自治会役員も交えた交流会で地域の絆づくりと活性化に繋げ、簡単なICTの活用で生活の質の向上、生きがいづくりにもつなげることを目的としており、石巻市、亶理町、山元町、東松島市、南三陸町の復興地域の自治体、自治会等の協力を得て、1コース10回のスマートフォンの簡単な使い方及びSNSを使った地域コミュニティの作り方、インターネットの活用方法(行政からの情報収集、お買い物等)と茶話会的な交流会を5コース開催する。	1,400

令和5年度 宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金交付決定一覧表

番号	事業名	団体名	活動地域	事業概要	交付決定額(千円)
8	文化芸術、農業、災害伝承を通した心の復興	遠足プロジェクト実行委員会	石巻市	被災者の心の復興を目的として、被災者が主体になり①芸術祭、②畑、③サロン、④震災資料館づくりを行う。被災者同士のつながりを形成し、生きがいづくりに寄与することで、心のケアと共助の力を高めることを目指す。参加者には障害者や在留外国人も含まれ、多様性のあるコミュニティの形成によってレジリエンスを高めることを狙いとしている。 1. 芸術祭 4/23(日)10:00-15:00 ダイス石巻 市内外から14団体が参加。観覧見込み200名。 2. 畑 4/1(土)～11月下旬のうち5回 ダイス石巻 休耕地を再生し、じゃがいも、サツマイモ、かぼちゃ、落花生を育てる 3. サロン 4/30(日)～1月上旬のうち5回 ダイス石巻 多国籍料理づくり、芸術ワークショップなど 4. 震災資料館 8月上旬～下旬 ダイス石巻 昨年実施した勉強会の成果をもとにパネル展示とワークショップを実施	1,600
9	みんなの感謝フェスタ	気仙沼ライトハウス	気仙沼市	本事業のテーマを「感謝音頭」と輪踊りで設定し、会場はステージ、出店、展示・体験コーナー、屋台等による飲食店等で構成され、運営はボランティアが中心に自発的に参加する。 本事業の趣旨目的である、やる気と生きがいの創出、及び市の広報による本事業の告知拡大により、市全体からの津波被災者の来場やボランティアとしての本事業への直接参加の増加が期待できる。 また、コロナ禍の影響で市全体の自治会の行事が途絶え、震災復興住宅においても高齢化と孤立化の進む中、より多くの津波被災者へ情報が行き届くことにより、地域に関心が生まれ、隣の人に挨拶をしたり、声掛けの切っ掛けに繋がりが、誘い合って、少しずつ自治会を通して、または個々に本事業に参加や来場することが期待できる。	1,600
10	後期高齢者の多い鶴ヶ谷を、大震災に負けず再び明るく元気な街へ!	つるがや元気会	仙台市	家に引きこもりがちになる高齢者も、外に出やすくなる、出たくなる仕組みを考え、実践する事で、大震災の被害に負けず、一時も早く立ち直り、明るく元気のある、住んでいて良かったと思う町にする。 鶴ヶ谷は地区は、75歳以上の後期高齢化率が24.3%と全国、宮城県、仙台市の約2倍もあり、また、438名の方が一時沿岸部等より避難して住んでおり、現在も多くの方が復興住宅、市営住宅に住み続けている。避難被災者を含めて、鶴ヶ谷地区を活性化し、明るく元気な町にする為、健康講座・市民講座、童謡を唄う会、ロコモ体操教室、バランス体操教室、水中ウォーキング教室、サロン「ほっとカフェつるがや」、「つるがや元気まつり」のコミュニティ活動を行う。	1,400
11	被災者自身が主体的に参加する「心の絆づくり」音楽プロジェクト	東北市民バンド協議会	多賀城市	被災者自身が主体的に参画し、災害公営住宅自治会等の自立・活性化を図り、町内会や自治会等の各種団体との連携によって、性別や世代を超えた交流が深まり、新たな絆づくりの創生を目的とする。被災者が住民を誘い、参加者が打楽器、歌、手話などを演奏家や歌の指導者と一緒に参加し、体験型交流コンサート(絆づくりコンサート)を災害公営住宅集会所や町内会で開催する夏祭りや敬老会等の行事において開催する。演奏会終了後は感想などを話し合い、参加者の親睦と融和を図り、住民同士の絆を深めるお茶会を開催する。更にアンケート調査を行い、次回のイベントに反映するとともに、居住者の課題や求めているものを見つけ出して自治体などへ情報提供を行う。	1,400
12	被災者支援・ふるさと東北支え合い運動	特定非営利活動法人 仙台明るい社会づくり運動	名取市・石巻市・気仙沼市	被災者と生きる糧になる『生きがい』を共に創っていく仲間として継続的に支え合い、また、全国から東北を訪れる人を後押し、共に支え合える環境を提供する。 ①寄り添い事業：被災者の孤立化は仮設住宅から復興住宅への移動に加えコロナによりさらに深刻化を増しており、また、独居高齢者は孤食も問題になっている。寄り添い事業では「みんなの食堂」で被災者が自ら調理に参加して、定期開催により継続していく。(当団体の寄り添い事業は2014年から70回継続している。) ②地域活性化事業：被災地域の賑わいはコロナの終息により復活の兆しが見えることから、今年度は昨年度に増して地域の人々と共にコンサートやお祭りを季節ごとに開催して継続的に取り組む。 ③他団体との連携：震災から12年が経過して、被災者の状況や要求も多様化している。1つの団体ではできない支援策は他団体と協力して実施する。	994
13	住民支え合い活動	松岩地区社会福祉協議会	気仙沼市	気仙沼市松岩地区の住民、震災で被災し松岩地区に自宅を再建した方、防災集団住宅に移住した方の親睦を深めることを目的として、住民主体の手づくり交流事業として、松岩地区内の70歳以上の高齢者の方を中心に、松岩公民館を会場として「お茶のみ会」、「かぼちゃ粥会」を開催する。 参加者による歌やアトラクションを行い、食事をとりながら近況報告や思い出話をして楽しいひとときを過ごし、被災した方々との交流を図る。どちらも20年程続く行事だが、震災後は被災者の方が暮らす仮設住宅にも毎日でチラシを配り、参加を呼びかけてきた。 震災で散り散りになった、以前住んでいた地区の昔馴染みに会い旧交を温めることができ、松岩全地区の方が参加するため、被災した方も見知った方に会える良い機会になることが期待できる。	327
14	「こころの表現」と『いのちのかたりつぎ』事業	一般社団法人 三陸まちづくりART	石巻市	演劇作品への参加・出演を通じて、東日本大震災の体験について自らの感情を表に出したり、表現として他者に伝えていく体験の提供を行う。歌やダンスや演劇を通じて、楽しみながら自然災害をテーマにした作品を創作することで、災害を次の世代に継承することについて大人と子供と一緒に学び話し合う機会を作り、作品の内容と自身の災害の記憶や思い出が一体となってアート作品として昇華する体験の提供を行う。 ○出演する俳優や演出家との稽古(全4回×受入先4か所) ①稽古1(歌とダンス) 90分 ②稽古2(演劇) 90分 ③オーディション 120分 ※配役を決めるためのもので希望者は全員出演できます ④会場でのリハーサル 180分 ⑤演劇作品「いのちのかたりつぎ」の上演(上演時間65分)	1,400

令和5年度 宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金交付決定一覧表

番号	事業名	団体名	活動地域	事業概要	交付決定額(千円)
15	ジュニアジャズミーティングinみやぎ2023	公益財団法人 宮城県文化振興財団	仙台市・石巻市	公益財団法人宮城県文化振興財団、復興支援音楽の会及び公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会が連携し、震災からの復興と次世代を担う子供たちの育成と交流を図るため、被災地のジュニアジャズグループに発表の機会を提供し、演奏環境や運営について支援する。今年で7回目を迎える本事業において、子供たちの中には、震災を経験していない児童が増えてきている。そこで本事業を通して震災の記憶を語り継ぐとともに、被災地域に住む子供たちの元気な姿を県内外に発信し、また、世代間の親睦を深め地域住民の交流を促すことで、地域の活性化と心の復興に寄与することを目指す。	1,600
16	音楽とアートを通じた被災者の心のケア事業	一般社団法人 スタンドアップ亙理	亙理町・山元町 岩沼市・大河原町等	被災地の若者達が自らの思いを台詞や踊り、歌や演奏に込めて表現し、被災者自身である若者達から大人達への応援メッセージを届け、生きる活力を得て復旧・復興に向けて歩き出せるように支援するとともに、被災者家族が抱える震災の風化防止と、記憶の伝承に取り組む。 ①プロのアーティストと参加者同士の交流(演技指導、曲作り、ワークショップ等)を通じた心の表現活動(年9回) ②プロのアーティストの楽曲に合わせた被災者自身が主役の映像制作活動(2023年8月～2023年12月) ③被災者自身が主役の音楽とアートを通じた被災者の心のケア(年1回) ④プロのアーティストと地域住民による交流を通じた震災の風化防止と記憶の伝承活動(年3回)	938
17	名画こころの交流事業	石巻名画座	石巻市・東松島市・女川町等	石巻圏に住む人々が気軽に外へ出て楽しむ娯楽が欠乏している現状を変えることと街の賑わいを取り戻すきっかけになるよう、古今東西の名画、話題作、石巻ゆかりの映画を上映する。 主に懐かしい作品を上映することにより、友人知人とのコミュニケーションが広がり、記憶を呼び覚ましたり、新たな発見に出会うことにもなる。また、単に映画を上映するだけでなく、トークイベントも開催して、観客同士の交流を図ったり、学びの機会とする。地元中心の意外なゲストを発掘して、故郷を再発見する楽しさを創出するほか、地ビールやオリジナルコーヒーなど地場産業の会社とコラボして、観客サービスに努め、地域活性化の一助とする。また、貴重な映画を上映することで、遠方からの来場者呼び込めで交流人口を増やすなど、各種活動を通じ心の復興に寄与することを目指す。	1,617
18	NaNa5931オリジナルミュージカル公演	七ヶ浜国際村事業協会	七ヶ浜町	七ヶ浜町では、災害公営住宅や高台移転など住宅再建は完了したが、別地区に移り住んだ町民も多く、新たなコミュニティ形成と活性化が現在の課題となっている。本事業は、幅広い年代の町民がともに「いのち」と「七ヶ浜」をテーマとしたミュージカル作品の制作に取り組むことにより「世代間交流の促進」「震災の風化防止」「町民の文化の発信・継承」を目的とする。 小学生から社会人まで幅広い世代の七ヶ浜町民約30名が所属するNaNa5931(ななごきゅーさんいち)によるミュージカル公演を実施し、「いのち」と「七ヶ浜」をテーマに、演者・観客ともに「明日への希望」「地域への愛着と誇り」を感じることでできる七ヶ浜ならではのステージ公演を行う。	1,400
19	PTSDからPTGへ 新しい考え方で心の復興	チャイルドネットジャパン	石巻市・塩竈市・女川町	PTG(心的外傷後成長)とは「PTSD(心的外傷)」をもたらずような、非常につらく苦しい出来事をきっかけとして人として心の成長ができるという考えであり、この考えを基に、被災者の皆さんの経験を他地域や防災につなげ、心の復興を目指すことを目的とする。 STEP1:東北大学の学生と被災者の方々(漁師・保育士・お店や飲食店など)に、震災前後10数年の話を聞く。 STEP2:恒常的な子どもの居場所づくり(週2回)、震災に起因する不登校や引きこもりの子ども達を上記被災者をつなげる「チャレンジデイ(一日職場体験)」を行う。 STEP3:間もなく震災30年を迎える神戸の被災者の方々に、震災前後の話を聞く。 STEP4:伺った話を元に、震災教育の副読本にもなるような本と、子供向けの防災紙芝居を作成・読み聞かせ会を実施する。海を知り、仲良くなるイベント(海はともだち)開催する。 STEP5:震災風化防止のために、神戸にて、東日本大震災の写真展を行う。	1,400
20	出会い、つながるスマホカフェ	特定非営利活動法人 とめタウンネット	登米市・南三陸町	震災後親交の途絶えた被災者が再び出会ったり、新たなつながりを目的として、登米市内において、南三陸町から移住した自力再建者が経営するカフェや、被災者支援をしているカフェで、それぞれのカフェの特徴を活かしたスマホカフェを開催する。さらに、南三陸町戸倉災害公営住宅では南三陸町社会福祉協議会や自治会と協力して、お昼ご飯会+スマホ教室を開催する。 SNSを通して、広く復興の状況を発信することにより、発災時に訪れたボランティアとのネット上での再会も期待される。また2か所で開催することにより、それぞれのカフェの参加者同士の交流についてもハッシュタグの活用によって促進することが期待される。戸倉災害公営住宅では、お昼ご飯会を開催することにより、住民同士の交流が図ることができるほか、一人暮らしの高齢者への声かけ、見守りにも繋げられると期待できる。	1,326
21	映画・演劇で人々を繋ぐ、地域活性プロジェクト	石巻劇場芸術協会	石巻市・東松島市・南三陸町・気仙沼市等	映画・演劇が持つ力でコミュニティ形成を行い、心の復興と地域の活性化を目指すため、様々な市民が企画を立てて参加する事業を行い、各地域で市民参加イベントを作っていくことにより、普段では得られない手作り体験や、新たなコミュニティの創出を目指す。 ①地方と都市部を結ぶ演劇 首都圏でプロとして活躍する劇団を招き、現地での公演とワークショップを開催する。公演は石巻の民間の劇場を利用して上演を行う。被災地を中心とした県内の多様な層の住民に参加呼びかけを行うとともに、スタッフワークも被災地行き若者を中心に募り、多様な世代と企画・運営を行う。 ②Open Area Theater 被災エリアの各自治体の多様な主体と協働しながら、住民と一緒に作り上げる映画上映と上映のためのワークショップを3回行う。広報の際に県内の復興公営住宅や地域の幼稚園や保育所、小学校など広く訪問し、多様な世代の来場者と共に開催をする。	1,250
22	石巻地域の中高校生と地域の大人がつながり、双方の生きがいと主体性を育む心の復興支援事業	一般社団法人 まちと人と	石巻市・東松島市・女川町等	被災地域の中高校生と大人が授業内外で世代や立場を超えてつながり、対話や協働をすることで、中高生が自発的に活動する機会を設ける。お互いの自己肯定感や生きがいを育み合うことを目的として、以下の二つの軸で活動を行う。 ＜A 高校生と地域の大人がつながる場づくり＞ 石巻地域の高校生と大人が、対話や交流の場を通してお互いの心を復興し合える関係性を作る。 ＜B 中高生の主体的な活動サポート＞ 地域活動をしたい高校生や中学生を募り、地域の中で主体的に活動し続けられるようサポートを行う。	1,600

令和5年度 宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金交付決定一覧表

番号	事業名	団体名	活動地域	事業概要	交付決定額(千円)
23	玉浦西を光と音楽で灯そう！心の復興事業	想いがつながる実行委員会	岩沼市	<p>岩沼市の集団移転地域である玉浦西において、毎年行われている公園のイルミネーションの点灯に「玉浦西に光の箱を灯そう」をテーマに、コミュニティのつながりを持つ機会として「光の箱WS」を開催、世代間交流の場を作る。またイルミネーションの点灯式を開催し、玉浦西の住民、また周辺住民に、交流の機会を作り、街に彩りを添える。</p> <p>【光の箱ワークショップ】東北芸術工科大学松村泰三准教授が考案した、光をフィルムミラーに乱反射させトレーシングペーパーに投影する「光の箱」をワークショップで制作する。イルミネーション点灯時期は中集会所、四丁目集会所の窓で夜間ライトアップを行う。</p> <p>【イルミネーション点灯式】まごころ公園のイルミネーションに、隣接する中集会所の窓へWSで制作した光の箱を並べ、参加者の皆さんとライトアップのカウンタウンを行う。</p> <p>【心の復興コンサート】四丁目集会所と中集会所で「玉浦西を音楽で灯そう」をコンセプトに、童謡コンサートを開催する。</p>	400
24	朗読劇メソッドで若者の伝える力をアップ	一般社団法人 ボランティア東北ファミリア	気仙沼市・南三陸町	<p>被災地の若者達が被災者から震災で閉ざされた心の声の聴き取りをして朗読劇で語る事で、体験した被災地の心が晴れ、また、朗読劇メソッド(疑似体験からの自己表現手法)を学ぶ事で表現力が付き、このメソッドが自身のプレゼン能力のアップにつながり、ファシリテートも学ぶことに加え、各地で話す事で震災の風化防止となる。</p> <p>朗読劇を行うには朗読劇メソッドを学び、疑似体験を通じて、聞き取ることで他人になりきり表現し、相手を想う心が養われ第三者的に理解してもらえる、心を言葉として紡ぎ出すことが出来るようになる。この演劇のプロから教わる事を今後続けることで、被災地の語り部の「伝える力」が各段にアップして、被災地以外の方々にもこの語りを聴いてもらうことで震災の風化防止となり、朗読劇を行うことで心を閉ざしていた被災経験者の方々の代弁となり、聴き取りをさせてもらった方の心が明るく前向きになることが期待できる。</p>	1,400
25	和太鼓によるコミュニティ形成支援プロジェクト	浦の浜親和会	気仙沼市	<p>浦の浜親和会で保存している和太鼓を活用し、複数の自治会と共同でイベントを開催することで新たなコミュニティを形成し、災害公営住宅等居住被災者と以前から地域に暮らす住民との交流の場を設けることにより、住民の孤立という課題の解消に務めていく。地域主体の和太鼓団体を作ることを前提にしており、第一段階としてまず今年度は和太鼓を「知ること」「触れること」を目的とした和太鼓の「ワークショップ」を開催する。ワークショップ4回目には発表会を行うこととし、体を動かし、目標を掲げることでやりがいを創出していくほか、発表会では講師による実演もを行い、次の目標への意欲へもつなげる。また、このワークショップを通して太鼓を知り、経験したのちに「自分たちの目指す太鼓(ジャンル)」を見つけ、来年度以降の活動へとつなげていくとともに、「文化」に触れることで心の復興を促進していく。</p>	335
26	心の復興支援 合唱団パリンカセツ浜公演	合唱団パリンカ	セツ浜町・多賀城市・塩竈市・利府町	<p>東日本大震災からの「心の復興」、コロナ禍で低迷している宮城県の合唱活動の「うたの復興」を目的に2022年10月に石巻市、石巻教育委員会の後援のもと、マルホンまきあーとテラス大ホールを会場に合唱団パリンカ石巻公演を開催し好評を得た事から、2023年10月15日にセツ浜町を候補地としセツ浜国際村ホールを会場に「心の復興コンサート」を実施する。テーマは来場者の「心のやすらぎ、希望の持てる演奏会」であり、本格的な合唱演奏による「心の復興」、地域合唱文化の発展への貢献を目指す。</p> <p>被災地合唱団3団体(セツ浜町、塩釜市、多賀城市合計80名)の参加があり、合同ステージでは合唱団パリンカ40名を合わせて120名での演奏を予定している。会場には570名観客を迎える予定であり、高校生以下無料招待も継続して行う。石巻公演のアンケートから、心の復興はまだまだ進んでいない事を実感したことから、合唱団パリンカは同様の目的で被災地での本格的な合唱演奏会を継続する。</p>	759
27	『人とアーカイブの交差点』～震災前の石巻を、観て・聞いて・探して・話そう！～	特定非営利活動法人 石巻アーカイブ	石巻市	<p>「震災前のふるさとの記録と記憶を、被災した人たちへ写真と思い出を残す。」ことを目的に、撮影時期や個人情報保護も留意した展示閲覧方法を検討しながら「人と思い出の交差点」をテーマに、気軽に訪れることができる展示・閲覧・交流スペースを市内中心部空き店舗に設置し、被災した方々に、蘇る思い出と可能な限りの写真等を手にしてもらう。</p> <p>①宝さがし『よみがえる「めだか展」』～14年～27年前の思い出と写真探し～ 石巻市出身の写真家橋本氏から委託された写真台紙(約1,000枚)を展示・閲覧し、本人もしくは親族に可能な限り返却する。</p> <p>②写真展「震災前の石巻」～震災前の石巻の風景や生活の一コマ～ 震災前の石巻の風景や生活の一コマの写真を展示閲覧し、希望写真を贈呈する。</p> <p>③「12年目の写真返却」～所有者不明の流失写真閲覧～ 洗浄後、復元デジタルデータ化された写真の閲覧コーナーを設置し、本人もしくは親族に可能な限り返却する。</p>	1,800
28	被災地域(南三陸町)の若者のつながりと地域への愛着を促進するプロジェクト	南三陸YY Project	南三陸町	<p>南三陸町の大人達には若い世代に町の産業・文化・自然・復興の歩みを知り、地域への理解や愛着を高め、震災についても自分事として捉えてほしいという思いがある。そこで、南三陸町の高校生が地域の大人との関りを通じ、地域や復興への関心を持ち、やりがいや生きがいを見つけていくことを目的とした活動を行う。</p> <p>①高校生と地元社会人及び大学生との対話による心の復興プログラム：準備・本番各2回 計4回 ②町や震災伝承について、各分野の体験談等を聞き、考えるワークショップ：3回 ※授業2コマ(1人40分+質疑10分)×2回転、もしくは放課後1回1時間×3週(3人)等 ③町の大人との気軽なコミュニケーション体験：1回 (アイデアワークショップ「モウトレ」を予定。) ④町を知り、考えるフィールドワーク：8回(月1回程度、週末を想定し内容は時期等による) (町歩きや震災語り部との同行など様々な体験を通じて地域の産業・文化・自然などを知る。)</p>	1,800
29	仙台市若林区沿岸部における地域交流と生きがいつくり事業	一般社団法人 ReRoots	仙台市	<p>若林区沿岸部は、東日本大震災によって甚大な被害を受け、集団移転と二つの小学校の閉校もあり、世帯数は約1500世帯から500世帯まで激減し、高齢化率は40%程度にまで高まっている。新型コロナウイルスの流行で過疎化・高齢化はより顕著になっていることから、地域に根付きながら、地域の伝統文化や住民の趣味、特技などを活かして生きがいを持って暮らせる地域づくりを目指す。</p> <p>①しめ縄づくり:地域住民とReRootsの学生スタッフが協力して制作し、地域の繋がりと住民の生きがいつくり、農村文化の継承を行っていく。 ②地域交流サロン:高齢化が深刻になっている地区で手芸、クラフト、脳トレなどを通して、地域住民間の交流、世代間交流に繋げる。</p>	1,298
30	こころの復興ミュージカル『忘れたい忘れない』	SCSミュージカル研究所	仙台市・セツ浜町	<p>東日本大震災から13年をむかえる2024年3月に、震災による地震と津波被害の大きかったセツ浜町を会場として、震災記憶を風化させない、復興への気運を高める趣旨で創作オリジナルミュージカル作品の上演を行う。</p> <p>被災地域であったセツ浜町とも連携して地元ミュージカル団体NaNa593!(ななごーきゅーさんいち)より本作品への出演者を募り、一緒に稽古を行い、舞台芸術を通じて本作品の鑑賞者と出演者、その関係者に対し、震災からの心の復興と発展への気運を高めることに繋げていく。</p>	1,400

令和5年度 宮城県NPO等による心の復興支援事業補助金交付決定一覧表

番号	事業名	団体名	活動地域	事業概要	交付決定額(千円)
31	書籍との触れ合いから生まれる心の安らぎ創造事業	一般社団法人 みちのさき	南三陸町	<p>災害公営住宅の集会所の一角に3台程度の本棚を設置し、小規模であたたかさや安らぎをじめる文庫を開設する。住民なら誰でも自由に無料で利用でき、読書を通じて心の安らぎや心のセルフケアに繋げていく。運営は地元住民のボランティアにより行い住民自らが作り上げる開かれた文庫とする。また、以下の事業を実施し住民の触れ合いの機会や、セルフケアのきっかけとなる自分を表現する機会を設け、心の復興に寄与することを目指す。</p> <p>○大人の読み聞かせ会：童話やエッセイなど心に響く優しい言葉を中心にした作品や、懐かしさを感じる昭和の作品など心が落ち着く大人の読み聞かせを10名程度の少人数で行う。月1回</p> <p>○読後感想発表会：5名程度の参加者が共通の作品を読み、感想や記憶に残った場面、作者の想いなど感じたものを積極的に人と話し合う機会を作る。月1回</p> <p>○ライティングセミナー：短歌や川柳など手軽に取り組める自分を表現するセミナーを実施し生活に彩を加える。年4回</p>	1,600
32	小学生の時に被災した子どもたちと現在被災地で暮らす子どもたちとの交流によってなされる継続的な心の復興支援のためのキャンプ事業	NPO法人 サクラハウス	東松島市	<p>震災当時小学生だった子たち（現在は高校生、大学生）が小学生に対するボランティア活動に参加することで、生きがいを見つけ、他者に仕える喜びと他者に必要とされる喜びを経験し、心の復興が継続してなされていく場を提供する。</p> <p>また、震災前後に生まれた今の小学生（間接的被災者）にとっても、同じ被災地域に暮らす学生たちと豊かな交流を持つことは自身の心の成長に大きな影響があると考える。震災によって壊れてしまった地域コミュニティが再生され、地域全体のさらなる復興への貢献を目指す。</p> <p>【取組①】夏キャンプ（8月上旬） 対象：小・中・高校生 新大学生がスタッフとして参加し始め、小中学生とスタッフとの関わりが始まる。</p> <p>【取組②】冬キャンプ（12月下旬） 対象：小学1～3年生 1泊2日とし、低学年が宿泊に参加しやすくする。 少人数の開催となり、小学生とスタッフが深い関わりを持つことができる。</p> <p>【取組③】冬キャンプ（1月上旬） 対象：小学4年生～中学生 中学校の部活動や、社会人の仕事が休みの時に実施し、より多くの参加者で行う。レクリエーションの時間を充分に持ち、互いを知ることのできる機会を設ける。</p> <p>【取組④】春キャンプ（3月下旬） 対象：中学生 普段、縦社会の中で生活している中学生が、再び学年を超えた交流を持てるよう図る。高校生となってスタッフ参加できるよう繋げる。</p>	1,600
33	花で地域を彩る	コミュニティスペースうみねこ	女川町	<p>震災前は3世代同居が多い地域だったが、震災後避難所、狭い仮設住宅での生活から核家族単位での家族の割合が多くなり、世代交流が少なくなっている。各地域の方からは「何をしても若い世代の参加がない。」「いつも参加する人は同じ人だ。」「地区の清掃活動にも若い人の参加はない。」などの声が多いことから、様々な世代が参加しやすく、参加した後も作ったものを気にかけて地域に足を運び、いろいろな声かけられるよう共通の話題作りを行う。</p> <p>1. みんなで木材でプランター作り 男性陣が主役 2. 作ったプランターに色を塗る 子供が主役 3. 花を植え、地域に色どりを作る 女性陣が主役 みんなで作ることにより関心が持てるようになり、また、それぞれの出番が作られる。</p>	1,404

計

計

44,376